

障害超え、思いをつなぐ

映画「こころの通訳者たち」公開中



© Chupki

耳が聞こえない人に言葉を伝える手話。では、手話を目の見えない人に伝えるには？ 映画「こころの通訳者たち」What a Wonderful Worldは、障害を超えて気持ちをつなぐようとする挑戦を追ったドキュメンタリーです。

東京・田端のミニシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」は、全上映作品に字幕と音声ガイドをつけるなど、障害者に配慮した劇場です。代表の平塚千穂子さんは視覚障害者の映画鑑賞環境づくりに取り組んでいます。

平塚さんのもとに、俳優

とともに舞台に立ち、手話でせりふを伝える3人の女性手話通訳者の記録映像が持ち込まれます。映し出される、俳優の感情も含めて聴覚障害者に伝えようとする姿に感動した山田礼於監督が、新たな映画制作の相談をもちかけたのです。

彼女らが手話で伝えようとした思いを、今度は目が見えない人たちに届けられないか。視覚障害者の協力を得て、これまでにない音声ガイドに向けた模索が始まります。「手話を、また言葉に戻す。最初と同じせりふになるのならいい」「舞台手話通訳者の動きを、どう声で表現する。」「練り広げられる、活発な議論と試行錯誤。

作中で「見えないとか聞こえないとか関係なしに、大事なものをバトンとしてつないでいけると証明できたらすごい」と語る平塚さん。挑戦の結末は――。

シネマ・チュプキ・タバタで先行公開中。22日から東京・ケイズシネマで公開、順次全国で。